

令和元年度 南丹地域リハビリテーション支援センター 研修会報告

テーマ「認知症の病態理解とその対応方法について」

-対象者にとって意味ある作業とは-

講師：株式会社 スマイルリンク デイサービス笑顔ぷらす

吉川 友様(作業療法士)

場所：京都中部総合医療センター第2病棟5階講堂

10/7(月)

13時半～15時



南丹圏域の医療・介護・福祉の従事者にむけて研修会を開催しました。講義の導入部分で講師から「どうすればひとは共感できるのか」と話されており、私自身も一人の医療従事者として色々な思いを頭にめぐらせながら話を聞いていました。参加された多くの方が「共感」するために認知症のことを学ぶ必要性について共通認識を持って頂けたのではないかと思います。そして、認知症の人は出来ないことだけでなく、出来ることにも着目していく必要があると講師も仰っていました。実際の事例の紹介、語りを通じて、改めて「作業」というものはその人らしさを象徴するものであり、興味深いものであると考える機会になりました。